

I P U M A G

Iwate Prefectural University Magazine 2013 Winter Vol.

58

[特集1]

学生の アイデアで どんな商品を開発する?



盛岡短期大学部×コンビニによる商品開発

[特集2]

岩手県立大学 アイーナキャンパス

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち
県大いいね!キャンパスナビ



岩手県立大学

学生のアイデアでどんな商品を開発する？ 自由な発想と学んだ知識を生かし 消費者をつかむ新たな弁当づくり。



去る11月12日、岩手県内のサークルKサンクスで盛岡短期大学部と共同開発したお弁当とおにぎりが発売されました。これは6月の第一弾に続く2回目の発売で、今回も学生たちが様々なアイデアを出し合って、新しい商品開発に取り組みました。



2回目の商品開発でアイデアを採用された学生たち。

学生の発想を生かした 新たなコンビニ商品を。

「学生の皆さんの意見や知識を生かしてコンビニ商品をにつくりたいのですが…」こんな申し出が(株)サークルKサンクスからあったのは、平成25年春のこと。地域に根ざした商品づくりを展開する同社が、岩手での商品開発にあたり、盛岡短期大学部生活科学科の食物栄養学専攻の学生たちに協力を依頼したので。

「コンビニは誰もが利用する店で、需要が高いジャンルの一つ。商品開発に協力するのは学生にとってもいい経験になると思いました」と話すのは、担当教員の一人である魚住恵教授。学生の斬新なアイデアを求める企業側と、実践教育の場として活用したいと考えた大学側の合意に

消費者のニーズに合った 商品開発の難しさを実感。

メニューが固まった段階で、今度はサークルKサンクスとの検討が始まります。同社側からは、品質管理コストの側面から使えない食材があること、コンビニとしての主なターゲットが30

〜40代の男性であることなどの説明がありました。それを受けて学生たちは、メニューを再検討。さらに、学生案に基づいて同社が試作品を作り、

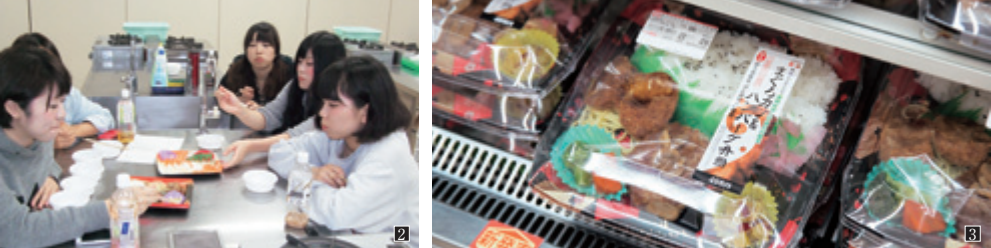
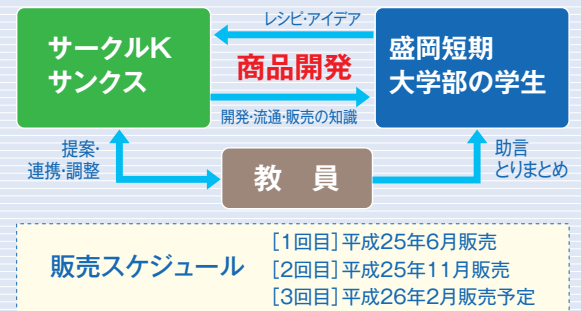
学生が試食するプロセスが踏まれます。試作品の段階では、学生たちが思い描いていた食材や味とギャップを感じる部分も多く、2回ほど内容を調整。その都度、学生たちの意見を取り入れつつ、消費者の嗜好に合った商品づくりを目指しました。

「自分たちが提案したメニューにいろいろな意見をもらい、その結果を商品に反映させるのが難しかった

…。ターゲットのことを考えることも大事なんだと学びましたね」と話すのは、食物栄養学専攻2年の及川侑子さん。商品開発に携わることで、商品が店頭で並ぶまでの仕組みなど、授業では学べない様々なことを知ることができたといいます。これまで商品化されたメニューは6種類ですが、発売時には学生たちも店頭販売に参加。発売後には、商品の反響などを伝える報告会が開催され、開発→販売→反応という連の流れを通して、商品が流通するまでの仕組みを学びました。

「授業では栄養価を重視して教えています。共同開発では消費者のニーズに応える難しさを学んだと思います。こういった経験は、栄養士になっても役に立つはずですよ」と、魚住教授。今後も学生の教育の機会としての企業との連携も大切にしていきたいと考えています。

共同の商品開発プロジェクトの流れ



- 1 2回目の商品販売の際に、サンクスの店頭で販売活動を行う学生たち。このようなPRや販売体験も大切な学びの場だ。
- 2 サークルKサンクスとの試食会の様子。味付けや食材の組み合わせ、見た目などについて詳細に検討し、様々な意見が出された。
- 3 11月の発売商品は「まぐろカツ&ハンバーグ弁当」「直巻おにぎり・きのこ炊き込み御飯」「直巻おにぎり・雑穀しらすわかめ」の3種。
- 4 学生たちが考えたお弁当のレシピ。ユニークなアイデアが盛り込まれたものや岩手の食材を使ったものなど様々。
- 5 第2弾の商品販売終了後の報告会の様子。商品がどのよう売れたかを、サークルKサンクスの担当者がグラフを用いて説明。
- 6 自分たちで考えたメニューを実際に試作している学生たち。
- 7 今回の共同開発に携わった盛岡短期大学部生活科学科の学生たち。「勉強になった」と語る学生が多かった。

「企業の方からのメッセージ」

(株)サークルKサンクス 高橋 航哉さん
学生の皆さんの斬新なアイデアを取り入れ新たな商品を開発したいと思っています。



「第3弾は『女性が食べたい商品』がテーマ。次回待っています」と話す、高橋さん。

「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたくて様々な研究教育活動をご紹介します。



◎研究室プロフィール
福祉サービスの利用者・当事者である要介護者や障がい者、それを支える家族の視点に基づいたソーシャルワークを主に研究。2012年より認知症の人と家族の会岩手県支部の「若年期認知症の人と家族のつどい」にサポートメンバーとして参加。学生に対しても「つどい」への参加等による本人や家族との交流を重視し、実体験や実態調査を積み重ねながら若年期認知症の本人と家族の支援についての研究・指導を行っている。

[研究メンバー]
藤野 好美(社会福祉学部・准教授・中央)
村上 祥子(社会福祉学部4年)
藤本 淳(社会福祉学部4年)
佐々木 陽子(社会福祉学部4年)
小原 歩美(社会福祉学部4年)
※学生氏名は写真左から順に記載

今回の研究テーマ 若年期認知症の本人と家族の支援について [社会福祉学部 藤野好美研究室]

若年期認知症の支援に関わる研究を通して、環境整備が遅れている岩手をサポート。

65歳以下で発症する若年期認知症。県内には約800人*いると言われていますが、高齢者の認知症に比べて周囲の理解が得られにくく、支援の環境整備が遅れているのが現状です。発症した際は、介護保険サービスなどを使うことができますが、高齢者と一緒に介護されることに抵抗を示したり、介護現場との連携がうまくいかず、利用継続に結びつかないことも報告されています。このような現状に注目した社会福祉学部の藤野好美准教授は、若年期認知症患者とその家族の支援について研究をスタート。県内の居宅介護支援事業所への実態調査を行うと同時に、「若年期認知症の人と家族のつどい」にサポートメンバーとして参加。患者本人と家族、それを支援する介護支援事業所の関係を深めるべく研究を進めています。
*岩手県長寿社会課調べ。(40～64歳/2012年3月末現在)。



4人の学生たちが手づくりで制作した「若年期認知症スタートブック」

学生たちの視点を生かした冊子で、病気に対する理解の「入り口」をつくる。

若年期認知症と付き合いながら、患者本人も家族も安心感を持って生活していくためには周囲の理解が欠かせません。藤野准教授は学生たちと「若年期認知症の人と家族のつどい」に参加し、本人と家族の思いをヒアリング。病理解の入り口として『岩手県若年期認知症スタートブック』を制作しました。これを手がけたのはゼミの学生4人。症状のチェックリスト、相談窓口や制度、患者や家族の声の紹介など、必要な情報をわかりやすくまとめ、すべて手書きで制作しています。「ご本人やご家族の声を聞くことで、本当に相手のためになる支援とはなにか」を学生に考えてほしかった。その思いを形にしたのがスタートブックです」と藤野准教授。今後も、患者・家族と介護事業所との連携を模索しながら、認知症への取り組みを広げていきたいと考えています。

認知症の人と家族の会岩手県支部が開催する「つどい」に学生も参加。本人や家族と交流を行った。



もし学生と商品を作るなら、どんなものを作りたいですか?

今回の特集テーマに関するアイデアをtwitterで募集したところ、文具、食品、工芸品、学生をパートナーとした店づくりなど、若い感性に期待するたくさんのツイートをいただきました。その中からいくつかをご紹介します。



日常的に使うモノ。例えば、ノートやファイルなどのステーションナリーグッズは毎日使っている学生の視点から見ることで、改善したい点や便利で新しい発想が生まれそう。@nanachu127

漠然としておりますが、とてもいい機会だと思うので、一回で完結するものではなく、長く関わって将来同じ方向に立っていられるようなものがいいかな。商品をきっかけにして長い知り合いやパートナーを見つけたいです。育てていくものや、終わりのないもの、自分なんかはお店とか。@cucikon

若い子の感性で、可愛いときめく商品を作りたいです!例えば、久慈琥珀!あまちゃん注目度が高まっているけど、若者が手にとりやすいデザインが少ない。伝統工芸品はそのまま素敵な物もあるのですが、若い子の感性が加わるとどうなるのか見てみたい。@cobuta64

デジタルが得意な若い世代が、あえてアナログの物を作る。もちろん若い視点を取り入れつつ。現代は早い、安いといった品が多く流通しているが、時間をかけて作ることを知ることによって物に愛着、大切にすることを学ぶ。やはり和服や工芸品に期待したい。@Nandarikan

ただひたすら意味もわからないほどに単純作業が必要なモノ。大人の知恵と若者の有り余る情熱、体力、時間が融合した時、結構なモノが生まれる予感がします。@koubouari

お土産物のお菓子とか。期間限定でもいいので、観光客がネタ的に(笑)思わず買いたくなるような突飛なお菓子を学生さんに考えていただいで、それが全国的に話題になったら面白いかなーと。@ta_mina

雪道でも濡れにくい&滑りにくい男女どちらも使えるおしゃれなブーツ。でも、季節性のあるものは難しいのかな…。@pndrhts2580

Comment

若い人の感性に期待する反響が多いことが目につきました。「食べ物」も人間が五感で感じるにいい、味、食感といった感性により決まる価値部分の大きいもののひとつです。これまで受け入れられてきたものとは異なる若い人の感性が活かされた新しいもので世の中が活性化することはよいことだと思います。



盛岡短期大学部生活科学科 教授 魚住 恵

※誌面のスペース等の都合により、お寄せいただいたツイートの一部の掲載とさせていただきます。

[特集に関するアイデア・ツイートの流れ] twitter

- 1 公式アカウントで「お題」を確認
- 2 twitterにアイデアをツイート
- 3 投稿アイデアが次号誌面に掲載

※ツイートの際には、文末に「#ipumag(発行号数)」を付記してください。「発行号数」は、本号では「58」、次号では「59」と変化しますので、「#ipumag58」「#ipumag59」のように表記してください。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願い致します。 ※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承ください。

次回の「お題(テーマ)」はツイッター上で発表します。一般の皆様、学生・教職員の皆様からのツイートを広く募集しています。たくさんのアイデアお待ちしております!



(写真上)アイーナキャンパスで行われる講座は、大学教員と県民の交流の場でもある(写真下)看護学部の教員と専門の助産師が相談役を務める「赤ちゃん相談」の様子。



岩手県立大学アイーナキャンパス

地域と県民の学びや暮らしに、大学の専門力をつなぐ窓口として。

盛岡駅西口に近接する「いわて県民情報交流センター」、通称「アイーナ」。県民の様々な活動や交流の場として親しまれるアイーナの7階にあるのが、「岩手県立大学アイーナキャンパス」です。どんな学びがあり、どんなことで利用できるのか、その機能と活動をご紹介します。

駅前立地のキャンパスで地域と大学の接点をつくる。

午後2時、「岩手県立大学アイーナキャンパス(以下アイーナキャンパス)」にあるパソコン演習室では、地域住民向けの「パソコンステップアップ講座」が開催されていました。講師は、ソフトウェア情報学部の堀川三好准教授。大学では情報システムの構築について指導する堀川准教授が、パソコンの初心者に向けてわかりやすくワープロや表計算ソフトの使い方を教えています。参加者も様々で、30代、80代と幅広い顔ぶれ。積極的に質問が飛び交い、和気あいあいとした雰囲気の中で授業が行われていました。

この場を創出するため、本学ソフトウェア情報学部とNPO善隣館が連携して、多彩な講座を行っています。

県民の様々なニーズに応える多彩な事業・活動を展開中。

このアイーナキャンパスは、岩手の活力を創出する教育・研究や地域貢献に取り組む本学が、社会人のキャリアアップや生涯学習に対する支援などを充実させるために設立したサテライトキャンパス。地域貢献の強化、教育研究機能の向上、「知の創造交流拠点」としての存在価値の向上を目標とし、大学院の授業や公開講座、福祉保健相談といった様々な活動を通じて、県民の学び意欲や暮らしを幅広く支援しています。

悩みに応える赤ちゃん相談といった県民が気軽に利用できるサービスを展開。専門の知識を持った大学教員が、丁寧相談に応じてくれます。

他にもキャンパスと同じフロアにアイーナホールや会議室等が整備されていることから、学会やセミナーなども開催され、研究者同士の交流の場としても活用。最近では、本学学生のキャンパスアテンダントが高校生向けの「IPUCAカフェ」を開催しており、入試や大学生活について話が聞ける場として人気を集めています。さらに、教室を使用しない時間帯には高校生に学習室として開放するなど、常に学ぶ意欲を支援するアイーナキャンパス。今後も多様なニーズに応える事業・活動を盛り込みながら、社会人の教育や生涯学習に関わるサポートを展開していきます。



多くの県民が利用する「アイーナ」の7階に位置。盛岡駅に近接する立地が最大のメリット。



学生による「IPUCAカフェ」は高校生向けの受験相談会。お茶を飲みながら気軽に話ができる。



アイーナキャンパスのエントランス。大学案内や各種講座の資料も入手できる。



社会人大学院生による発表風景。仕事を終えた後に学べるスケジュールになっている。

<アイーナキャンパスの5つの機能>

■ 社会人教育
大学院の授業やリカレント講座を通じて社会人のキャリアアップをサポート、専門知識を持った人材づくりを進めます。
◎総合政策研究科公共政策特別コース、社会福祉学研究科・看護学研究科の一部の授業、盛岡短期大学部による管理栄養士資格取得のためのリカレント講座など

■ 生涯学習支援
本学の教育資源を活用して、多彩な公開講座や講演会などを行い、様々な生涯学習ニーズに対応します。
◎IPU情報システム塾、「県民と学のふれあい」、「地域のくらしと文化を見つめる」等の公開講座や研修会など

■ ソーシャルサービス
保健医療や社会福祉に関する県民の相談に対応するとともに、現場へのサポートなどを行います。
◎臨床心理相談、福祉相談・カウンセリング、生活習慣病相談、不妊相談、赤ちゃん相談など

■ 地域協働・産学連携活動支援
研究活動や教育活動の一環として行われる様々な活動やプロジェクトの場として活用し、地域や企業との連携を推進しています。
◎糖尿病・生活習慣病療養相談カンファレンス等のグループワーク支援、研究プロジェクト活動、研修会、学習会など

■ 情報発信
アイーナキャンパス事業・活動などの情報や入試情報など、本学の活動に関する各種の情報を発信します。
◎大学案内、募集要項、各種講座の案内・資料配付など

[利用者メッセージ]

軽石 敏子さん
私は80歳なんですけど、新しいことにチャレンジしたいと思って「パソコンステップアップ講座」を受講しています。この講座で学んだお陰で、パソコンのセットアップも一人で挑戦してみました。iPadで写真や動画を撮ってブログやfacebookに載せています。これからは県立大学には、私たちが興味を持って学べるような様々な講座をお願いできればと思います。



[スタッフメッセージ]

佐藤 真弓さん
アイーナキャンパスで開催される講座は、ホームページに情報を掲載したり、館内にチラシを置いて告知しています。初心者向けのものから専門職用のものまで多彩な講座がありますので、興味のある方は気軽に問い合わせしてほしいですね。また、教室に空きがある時は高校生向けに学習スペースを提供しています。勉強したいと思った場合は、受付までどうぞ。





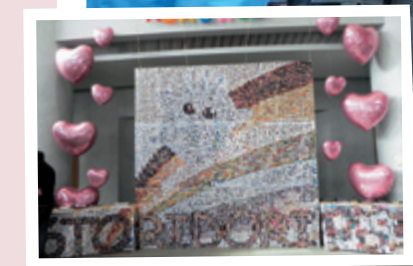
16 (いろ) とりどりの笑顔が集った IPU Festa 2013

10月26日・27日に、本学では大学祭が賑やかに開催されました。心配されていた台風も運良く進路を外れ、天候に恵まれた2日間となりました。滝沢キャンパスではモールや講堂などを中心に模擬店の出店や様々なイベントなどが行われ、来場者を楽しませました。また、今年は13,000人以上の方が来場し、「心会(こころえ)~16(いろ)とりどりの笑顔」のテーマの通り、たくさんの笑顔が見られました。(出版委員会・千田裕太)

TAKIZAWA 10.26,27



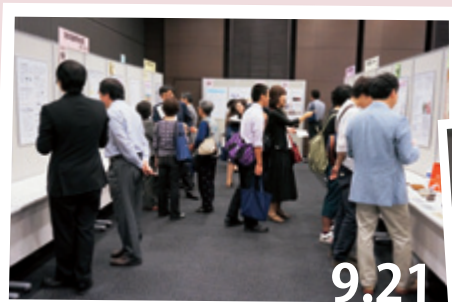
MIYAKO 10.26,27



宮古キャンパス 「蒼翔祭」、テーマは「輪(つなぐ)」

テーマの「輪(つなぐ)」は、「地域の方々と復興支援のために宮古に来てくださる方々との「つながり」や、私たちが日々支えてくれている地域の方々や家族との「つながり」に感謝し、またこれからも大切にしていきたい」という思いを込めて決めたものです。昨年好評だったスタンプラリーを10月26、27日の両日開催したほか、恒例のゼミ模擬店やお化け屋敷、たくさんの方に参加いただいたビンゴ大会、地元のウクレサークルのライブなど、地域と大学をつないで盛り上がった2日間でした。

IPU TOPICS



9.21



「岩手県立大学研究成果発表会」を初開催!

「平成25年度岩手県立大学研究成果発表会」が9月21日にいわて県民情報交流センター(アイーナ)で開催されました。各学部の研究を始め、地域政策研究センター及びいわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター(i-MOS)まで含めた大学全体の研究成果を発表するのは、本学では初めての試みです。震災復興と地域貢献をテーマとして、基調講演のほか42課題の講演発表、94課題のパネル展示を通して、本学が取り組む多様な専門研究の成果を紹介。県民・関係機関等の多数の皆様に来場いただきました。

ボランティアを通じた米大学との国際交流

9月27~29日、岩手県立大学生と米国オハイオ大学の学生による復興支援交流活動が行われました。3年目となる今年は(財)本庄国際奨学財団の奨学生等も参加。初日の事前学習会で復興の状況や支援活動について学んだ後、27日は大槌町で「菜の花プロジェクト」の作業、28・29日は広田半島での水ボラ活動を行いました。ボランティアを通じて被災地への理解を深める傍ら、夜にはバーベキューも行うなど、学生同士の活発な国際交流が行われました。



9.27~29



9.25, 10.23

※写真提供:伊藤英之准教授

川口中学校と連携して、防災教育授業が行われました

岩手町立川口中学校で総合政策学部の伊藤英之准教授と学生の協力による防災教育授業が実施されました。川口中学校は今年度、復興教育推進校の指定を受け、「ひとつくり」の理念を実現するための学習に取り組んでおり、伊藤准教授が協力・連携するものです。1回目の9月25日は防災カードゲーム「クロスロード」を通じた災害体験授業を、2回目の10月23日には車椅子利用時や妊産婦などの避難時に援助が必要な方の避難体験(写真)と、地域の防災マップ作りを行いました。

全国の公立大学の学長会議と学生大会が同時開催

10月12日、全国の公立大学の学長が一堂に会する「全国公立大学学長会議」と、全国の公立大学の学生による「全国公立大学学生大会」が本学を会場に同時開催されました。72大学の学長や副学長による会議と、34大学の学生によるワークショップやパネルディスカッションが行われ、合わせて約170名が参加。特に午後開催された全参加者による特別シンポジウムでは内容の濃い意見の交換が行われたほか、学生大会代表から今後についての強い決意も述べられました。翌13日は被災地視察等が行われました。



10.12



10.18

どんぐりころころ川前保育園とっしょに

10月18日金曜日、台風一過の秋晴れの下で川前保育園ばら組の園児たちが、今年で7回目となる「どんぐり拾い」を楽しみました。園児たちは食堂裏のコナラの林でどんぐりを拾い、そのうち虫に食べられていないものをポットに植えました。その後、昨年拾ったどんぐりから大学が一年預かり育てた苗を第一調整池近くの畑に植えました。これからも園児たちとコナラの背比べを見守りたいですね。(出版委員会・山崎智水)

被災地の現状と課題解決を学ぶフィールドワーク

10月19、20日の2日間にわたり、主に1年生が沿岸地域でのフィールドワークに取り組みました。これは本学が地域の中核人材を育成するために計画する『希望郷いわて創造プロジェクト』の試行事業として実施されたもので、現地フィールドワークから地域課題を把握し、問題解決の学びを通じて、専門領域の主体的学修に継承することを目的としています。本年度は宮古市・山田町と陸前高田市・大船渡市の2つのコースで、それぞれの被災地の現状把握と理解に取り組み、地域の復興・再生に向けた課題解決について学びました。



10.19,20

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

観光振興を目指し、 本学・宮古市・観光協会が連携

本学と宮古市、宮古観光協会による「宮古市観光産・学・公連携基本協定書」の締結式が11月8日に行われました。地域の復興と発展に向けて産学公が連携し、多様な視点を取り入れた観光振興につなげるものです。11月9、10日には学生による宮古市での現地調査を実施。その後、震災遺構保存とその周辺施設の整備等をテーマに意見交換が行われました。今後は大学の知識や学生の柔軟な発想を活かし、宮古市の新たな旅行商品の開発を目指します。



11.8



11.20

メンバー全員で取り組んだETロボコン全国大会で総合9位の好成績

11月20日、ETロボットコンテスト全国大会に、ソフトウェア情報学部の猪股研究室からチーム「monolith」が出場しました。9月に開催された東北大会でデベロッパー総合部門の1位を勝ち取っての参加です。チームリーダーの菅原誠さん(4年)は「メンバー全員で取り組むことを目標として、作業を効率的に行えるよう心がけました。また、大会では会場の照明環境が光センサに大きな影響を与えるため、会場での影響を大学と同等に抑えるソフトウェアに注力し、開発を行いました」と、苦心した様子。その甲斐あって全国大会では、デベロッパー部門総合で9位の好成績を収めました。(出版委員会・堀田健仁)

「地域のために」その思いを忘れずに、
いつも笑顔でいつも全力投球で。



地域貢献を使命の一つに掲げる
岩手県立大学。
学習や研究に励みながら
地域に役立つ力を磨く在学生と、
仕事を通じて
地域づくりに関わる卒業生、
それぞれの熱い思いを
紹介します。

在学生

私は宮古市の出身なのですが、中学時代から熱中していたソフトボールを極めたくて花巻東高校に進学しました。震災が起きたのは、高校2年の春休み。発生から2週間後に実家に戻り、泥に覆われたまちの惨状に言葉を失いました。その頃から故郷への思いが募り、地元で学びたいと考えて宮古短期大学部に入学したんです。

大学では経営・会計分野を専攻、経営学や経済学などを幅広く学ぶ中で特に興味深かったのが「地域総合講座」。地元でお店や事業を行っている方を講師に招いてお話を伺うのですが、仕事に対する姿勢やスタンスに学ぶことが多く、刺激になりました。勉強の一方で取り組んだのが、学生会活動です。副執行委員長として学内イベントの企画・運営を取り切ったのですが、特に大学祭は様々なことを兼務しなければならず大変でした。自分のキャパシティや作業の進め方などを学び、いっしょに勉強になりましたね。

他にもアルバイトをしたり、地元の山口太鼓に参加するなど、興味のあることにはどんどん挑戦するようになっています。もちろん初めてのことに飛び込むのは勇気がいりますが、失敗も成功もすべてが自分の糧。様々な年齢や職業の人たちとのつながりも広がり、それが私の財産になっていると思います。

卒業後は県内の自動車ディーラーに就職しますが、太鼓はずっと続けていきたい。仕事と太鼓を両立することで、地元へ元気を届けながら自分自身も成長していきたいと思っています。

畠山 茜 はたやま あかね

【宮古短期大学部経営情報学科2年】

1993年宮古市生まれ。花巻東高校卒業。身長148センチの小柄な体で、中学・高校時代はソフトボールに熱中。高校三年の時の校内主張コンクールでは、震災の経験と故郷への思いを訴え、見事優勝。大学では、勉強に励む傍ら、学生会、山口太鼓、アルバイトと様々なことに挑戦。明るく天真爛漫な性格で、どんな時でも笑顔でいることを心がけているという。

地域をつくる 希望の星たち



お客様のためにできることを考えながら、
常に今の自分を超える努力をしていきたい。

卒業生

高校で進路選択の時、最初は環境系の学部を考えていたんです。その一方でファッションにも興味があり、先生から住居と衣服について学べる盛岡短期大学部を薦められたのが入学したきっかけです。

実際に学んでみると、OJT(※)で間取りをつくるのがすごく楽しくて、ライフスタイルを考えながら生活空間を創造するのも面白いかなと思っただけです。そうはいっても、最初から建築会社への就職を考えていたわけではありません。他業種の企業も受ける中で、「自分がやりたいことは何か」と真剣に考えた時に、改めて建築の道が見えてきたんです。

住宅営業を始めて2年目ですが、この仕事はいいお客様に信用してもらおうかすべて。私の場合は年齢も若かったため、落ち着いた雰囲気や身につくよう話し方や仕事から鍛え直しました。また、住宅に詳しいお客様が多いので、常に求められる以上のものを提案しなければなりません。「お客様のために何ができるか、考えて行動するように」と、1年目はいつも上司に言われていました。

がむしゃらに頑張った1年目で、なんと4棟を受注。しんどいことありますが、「小松さんに担当してもらって良かった」とお客様に喜んでいただけたことが一番嬉しい。お客様に育てられ、励まされて、ここまで成長できたように思います。今年から宮古支店に配属されたのですが、私に期待されていることを少しでも形にしたい。「お客様のためにできること」を常に考え、もつと自分から発信していきたいと思っています。

小松 真人 こまつ まこと

【株式会社ハウスM21 宮古支店】

1991年関市生まれ。岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科卒業。1年の時から学生ボランティアセンターに所属し、小学生の登下校を見守るスクールガード等の活動をしながら多くの人と交流を広げた。今でも大学の同級生とは仲が良く、飲みながら仕事の悩みを相談し合うことも多いとか。仕事に余裕がきたらスノーボードにも挑戦したいと考えている。

(※)Computer Aided Design の略。コンピュータを使って設計するソフト。



県大いいね! キャンパス・アテンダントがご案内します!

キャンパスナビ

学生目線で大学の魅力楽しく発信するキャンパス・アテンダント。現在、40名の学生たちが活躍中です。そんな彼らが、大学の知られざる魅力を紹介するのがこのコーナー。毎回ユニークなネタが飛び出しますので、ご期待ください!



Vol.6 / 学んでみたい、利用してみたいユニークな部屋特集☆

今回はいつも私たちCAが、見学に来てくれた高校生みんなにキャンパスを案内する「キャンパスツアー」の特別編! いつもは学部生しか入る機会のない実習室、授業や自習で使えるユニークな機能を持つ施設などを、実習風景とあわせてご紹介します。



大学には、他学部だと学生でも知らない施設がいっぱいあって興味津々! いろんな授業や目的に使われているんだね。みんなでのぞいてみよう!



① 語学自習室 (図書館)

外国語のトレーニングに最適! 英語のほかにいろいろな言語の図書・視聴覚教材がズラリとそろった語学自習室です。DVDや外国語放送などが視聴できる自習用ブースもあるので、集中して学びたい人におススメ!

デカい鍋で何人分くらいつくれるのかな?



② 基礎・成人・老年看護実習室1 (看護学部)

ここは、実際の病室を想定して様々な看護技術を学ぶ実習室。撮影時は、マネキンを相手に呼吸や心音を聞き取ったり、酸素吸入やたんの吸引を勉強。繰り返し実習で学び、覚えていきます。

本番さながらの実習をやっているんだね!



④ 給食管理実習室 (盛岡短期大学部)

学校や病院などで使う大鍋や炊飯器を使って、全身で調理する学生たち。ここは大量調理を学ぶ実習室で、栄養士を目指す学生の必修授業。この経験がいつかおいしい給食に結びつくのかもしれないね。



音が遠くから聞こえるような気がするから不思議だよ!



⑤ 無響室 (社会福祉学部)

この部屋は全体が吸音構造になっていて音の反射がほとんどありません。そのため、実際に耳に響く音とは違うように聞こえるから不思議! ここでは、補聴器の測定のような聴覚障害に関する研究や様々な音の研究が行われているんですよ。

③ プレイルーム (社会福祉学部)

学生たちが子ども役と先生役になって、どんな風に子どもを遊ばせたらいいのかを学びます。これは幼稚園教育・保育実習の「事前指導」のひとつ。保育士や幼稚園教諭を目指す学生の授業で使います。



版委員会・千田裕太)

いよいよ受験シーズン。の到来ですが、高校生の姿を見ると1年前の自分を思い出します。当時高校3年生だった私は、緊張から来る足の震えを必死に堪え、ソフトウェア情報学部の入試相談に赴きました。そこは、自分が想像していた厳格な雰囲気とは違い、先輩や教員の方々に明るく迎えていただき、とても有意義なものとなりました。今年、私は入試相談を受ける団体に所属し、かつての自分と同じ悩める高校生の相談相手になりました。とてもいい経験になったと思います。(出版委員会・千田裕太)

今日は「どんぐりおじさん」こと、大学構内の植栽管理をしている共同園芸の社員である依田一裕さんと平塚先生が園児たちに囲まれながら、どんぐり拾いを通して自然の中で遊ぶことの大切さを教えていました。この取り組みが、本学と地域の絆が根を張るきっかけになればいいと思います。(出版委員会・山崎智水)

今年で7回目となるどんぐり拾いは、総合政策学部の平塚明先生が中心となって平成19年から取り組んでいます。昨年はこうした構内緑化活動が実を結び、調整池が「ビオトープ大賞」を受賞しました。当日は「どんぐりおじさん」こと、大学構内の植栽管理をしている共同園芸の社員である依田一裕さんと平塚先生が園児たちに囲まれながら、どんぐり拾いを通して自然の中で遊ぶことの大切さを教えていました。この取り組みが、本学と地域の絆が根を張るきっかけになればいいと思います。(出版委員会・山崎智水)

特集1のサークルKサンクスと盛岡短期大学の学生による商品開発。第2弾の販売終了後の締めくくりとなる報告会では、発売日からの販売量がどのように推移したか、どの商品がどんな客層にどれだけ売れたのか、データを使って担当者から報告と説明がなされていました。自分たちが考えて共同開発した商品の販売結果までを学べた今回のプロジェクトは、とても貴重な経験となったのではないのでしょうか。2月に発売予定の第3弾でも、学生のアイデアからどんな商品ができるのか楽しみです。(企画室・三輪陽子)

編集後記



岩手県立大学 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会
Iwate Prefectural University

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
[URL] http://www.iwate-pu.ac.jp/
[e-mail] management@ml.iwate-pu.ac.jp 発行:2013年12月31日